

令和6年度第1回石狩市行政改革懇話会会議録

開催日時：令和6年10月7日（月） 10:00~11:00

開催場所：石狩市役所5階 第1委員会室

出席者：会長：飯尾亜紀仁

副会長：伊藤美由紀

委員：本間貴士、佐藤貴美枝、草野竹史、今野博之

欠席者：佐藤陽亮、東幸子

事務局：佐々木財政部長、武田財政課長、石井財政課主査、青山財政課主査、獅子内財政課主査

傍聴者：0名

【開 会】

●事務局（武田課長）

本日は大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

定刻でございますので、只今より「行政改革懇話会」を開会いたします。今回は、任期初めての懇話会の開催となりますので、会長の選出までの間は、私、武田が進行させていただきます。

なお、本日は、佐藤陽亮委員、東幸子委員からは都合により欠席との連絡がございましたので、ご報告申し上げます。

今回、委員の改選期ということもございまして、新たな委員さんもいらっしゃることでございますので、まず、皆さま方から一言、簡単な自己紹介をいただきたいと存じます。

【各委員の自己紹介】

●事務局（武田課長）

皆様方、令和8年3月末までの任期の間、どうぞよろしく申し上げます。続いて事務局側の紹介をさせていただきます。

【事務局自己紹介】

●事務局（武田課長）

続きまして、会長と副会長の選出をさせていただきたいと思っております。

石狩市行政改革懇話会設置要綱に基づき、会長と副会長につきましては皆様方の中から互選で定めると規定されております。選定方法はどうしますか

●本間委員

事務局に一任致します。

●事務局（武田課長）

事務局一任という声がありましたので事務局で指名させていただきたいと存じます。

指名につきましては、行政改革懇話会の委員としてのご経験のある飯尾委員を会長に、副会長には伊藤委員を考えておりますがよろしいでしょうか。

【異議なしの声】

●事務局（武田課長）

全委員に賛同いただきましてありがとうございます。

それでは、今後の進行は飯尾会長にお願いしたいと存じます。

次に、議事録の記録についてであります。全文記録が基本であり、また要点でまとめる方法もございます。この懇話会はこれまでも全文記録としておりました。今回も全文記録でよろしいでしょうか。

【全委員了承】

全文記録として、皆様に発言内容を確認いただき、会長のサインをいただく流れにさせていただきます。それでは、飯尾会長、進行をお願いいたします。

●飯尾会長

それでは、只今から審議に移ります。

それでは早速、行政改革懇話会を進めさせていただきたいと思っております。

本日の案件は令和6年度の石狩市における行政改革の取組みについてとして

① 地域情報発信アプリ導入事業について

② eLTAX（エルタックス）を活用したQRコードによる公金収納の拡大について

の2件となっております。

今回は、特に何かを決定するというのではなく、現在進められている行政改革に関する取組の説明と聞いています。

忌憚のない意見交換ができればとおもいますので、よろしく申し上げます。

始めに、地域情報発信アプリ導入事業について、担当課より説明いたします。

●事務局（小林DX推進課長）

DX推進課の小林と申します。よろしく申し上げます。地域情報発信導入事業につきまして背景は私の方から、どのようなものか具体的な概要については危機管理課よりご説明をいたします。

背景については口頭でのご説明とさせていただきます。これからご説明する地域情報発信アプリの構築につきましては、防災行政無線や厚田区内に設置の戸別受信機の老朽化に伴う代替手段の検討時期において、防災情報のみならず市や自治会など地域の日常生活に関する情報について立体的に容易に入手できる仕組み、情報伝達共有のプラットフォームが必要であることから、災害情報やイベント等の地域情報をスマートフォンやタブレット等により住民が迅速に取得しやすい環境を作るものであります。

この事業により必要な人に対して必要なタイミングで必要な情報にアクセスしやすい環境を提供することによって満足度の高い市民サービスの推進を図るものとなります。

この事業の検討は令和5年度当初から市役所内で地域防災情報発信手法に係るプロジェクトチームを立ち上げ、基本的な方向性、アプリで取り上げる地域情報及び具体的な手法について検討して令和6年度国のデジタル田園都市国家構想交付金という財源を活用して実施すべく準備を進めてまいりました。

今年度当該交付金決定を受けまして、プロポーザル方式により事業者を決定し、現在詳細の仕様を確定し今年度末にはサービスの展開ができる予定となっております。次年度以降は地域情報の配信サービスの拡充を検討しております。今年度は防災に関する機能を中心に進めている担当課より説明いたします。

●事務局（鶴沼危機管理課主査）

危機管理課の鶴沼と申します。私からは今年度中に導入の検討をしているアプリについて当初から実装する予定となっております防災に関する機能についてご説明をさせていただきます。前方の画面に表示する資料に沿ってご説明を申し上げます。なお、資料につきましては現時点の情報でありまして確定ではないということと、あと企業様による情報が含まれておりますことから写真撮影についてはご遠慮ください。

まず災害が発生した場合の緊急情報の配信につきましては、従来沿岸部に設置されている防災行政無線、メールやLINE、X、(旧) ツイッター、広報車などの手段にて周知を図っていたところでございます。

しかしながら防災行政無線は沿岸部にしか設置されておらず内陸部では聞こえないこと、沿岸部においても風向きや雨音などにより聞こえにくいという問題がありました。この問題を解決するため多数の人々

が使用しているスマートフォンを利用した防災情報発信のシステムについて検討を開始したところです。

市民の皆さんのスマートフォンに直接緊急情報が届くことから、皆さんのスマートフォンが防災行政無線の戸別受信機に変わるというイメージになります。このシステムの導入により防災行政無線が聞こえにくいという問題が解決されること、防災行政無線の音達範囲外に居住されている方にも緊急情報を即時に伝えることが可能になるなど緊急情報配信手段の更なる多重化と即時性の向上により地域防災力の向上が図られるものと考えております。本年6月27日に石狩市地域情報発信アプリ導入事業に係る公募型プロポーザルを実施し、株式会社デンソー社を第一優先契約候補者として選定をしたところでございます。

続きまして本システム、ライフビジョンというシステムですがこちらの概要になります。

年齢やITリテラシーに関係なく誰でも簡単に使えること、情報入力の一元化を実現し職員の負担を軽減災害時に確実に情報伝達する仕組みと伝達性の向上、将来にわたりさまざまな用途で利用できるよう拡張性を持たせたシステム構成といった特徴を持ったアプリになります。

続きましては情報の流れを表示したものになります。左上外部システムからの通知というところですが例えば北朝鮮のミサイル、テロ等の国民保護情報や緊急地震速報、気象警報を発信するJアラートからの情報、さらに自治体からの避難指示や避難所の情報などを発信するLアラートは本システムが自動で情報を受信しその情報を自動でアプリの方に配信をする他、LINEやメール、X、また電話に対しても自動で配信をすることが可能です。

また各課からの情報配信というところで市役所からのお知らせについてもアプリに加え各種SNSに自動配信が可能となっております。従来は暴風雪警報などJアラートの気象警報が発表されると我々危機管理課の職員が夜中であっても起き上がってLINEやメールに手動で情報を入力配信をしていましたがこれが自動化されることで職員の負担や即時性また正確性が向上することになります。

また市役所からのお知らせにつきましても従来は複数のSNS毎に入力を行っていたものがライフビジョンへ入力さえすれば、自動ですべてのSNSに配信されるということになりその手間が軽減されます。

続いてライフビジョンのアプリの画面イメージです。市民のスマートフォンにインストールしていただくこととなります。色がちょっと地味になっておりますがこれは高齢者が認識しやすい色使いになっていること、ボタンも使いやすいように大きく配置されています。またデンソー社がカーナビなどの開発で培ってきた技術を投入しまして早い反応速度にこだわった使いやすいアプリになっております。

ここからは主な機能の説明になります。

まずお知らせ配信機能です。市役所で入力した情報がアプリをインストールした端末にプッシュ配信されます。ホームページなどは自ら情報を取りに行かなければなりませんでしたが、スマホに通知が来るので新しい情報に気づきやすくなります。

カレンダー機能です。イベントなどの情報をカレンダー表示することができます。

コンテンツ配信機能です。ハザードマップや広報誌などの資料、画像、動画などを配信することができます。メールなどに比べて多彩な情報を送ることが可能になります。

緊急モードです。災害時などの緊急時には画面のスタイルを変更し、視覚的に緊急度合を伝えることができるようになります。

アンケート機能です。利用者にアンケートをとることができるようになる機能が付いております。

多言語対応です。日本語で入力した日常また災害時のテキストを複数の言語に自動翻訳して配信が可能になっております。対応言語は英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ポルトガル語になっております。

職員参集機能です。職員のスマホにアプリをインストールすることで職員の安否情報のほか、当庁可否を一括で管理・確認が可能になります。災害時の職員の情報把握に役立つ機能です。

写真投稿機能です。災害時に職員が、被災した状況を写真撮影すると、その位置情報を含んだ写真データを一覧で管理することができます。地図上で表示することもできますので、災害発生時の情報収集に効果を発揮致します。

避難所・被害情報の入力です。職員のアプリから各避難所の状況を入力することが可能になります。避難者の人数、避難所で必要としている情報などが現地に居る職員のスマホから送られてきます。災害対策本部で各避難所の状況を一元管理することが可能になります。

オンライン地図機能です。ハザードマップや避難所の情報が確認できるマップ機能です。スマホの位置情報を利用して現在地から避難所までの避難ルートをナビゲーションしてくれる機能が付いております。

災害備蓄物資の管理機能です。これについては現在開発中という状況ですので、内容については未確定

な部分が多くある機能になっております。目指す機能としましては防災備蓄品の在庫管理ができるアプリです。災害時にどれだけの備蓄品が輸送され消費されたかなどの管理がアプリ上で可能になることを目指しております。

続きましてJアラート連携です。震度速報・気象情報・国民保護情報などの緊急情報が自動で皆様のスマートフォンに配信されます。

Lアラート連携です。同じく自治体が発表する避難情報・避難所情報などのLアラート情報を自動配信することが可能になります。

ホームページ連携です。石狩市のホームページが更新されると自動で通知される機能です。情報については一部の情報が通知されることになる予定です。

メール連携です。現在石狩市メール配信サービスに登録されている方に更新情報・お知らせを自動配信致します。

電話の自動架電機能です。高齢者などスマホをお持ちでない方に対して、家の固定電話を登録していただくことでこのアプリの方から皆様の家の固定電話に自動で電話をかけて緊急情報をお知らせしてくれるという機能になってございます。

L I N E連携です。現在石狩市の公式L I N Eに登録されている方に対して、お知らせを自動で配信ということを考えてます。

X（旧ツイッター）連携です。こちらもお知らせをXの方に自動で投稿するという機能になります。

以上が今年度中の導入に向けて検討中の地域情報発信アプリの主な機能となります。

スケジュールにつきましては現在まだ契約を行っていないという段階ですが、契約に向け細かい仕様について詰めの作業を行っているところです。

12月中にはテスト運用、来年2月から3月には試験リリースができればというふうに考えているところでございます。

このため本日のご説明の内容につきましては変動がある可能性があることをご理解いただければと思います。私からの説明は以上です。

●飯尾会長

ありがとうございます。

それでは、この件について、ご質問やご意見等ありましたらお願いします。

●本間委員

ご説明頂いて職員の皆さんの危機管理に対する手間の軽減にはすごくいいことだと思うんですけど、アプリのインストールを市民にさせていただくことが肝になるんじゃないかなと思うんですけど、その辺りの工夫や何か考えがあればお聞かせ願えないかと思っています。

●事務局（鵜沼危機管理課主査）

まさにどれだけインストール数を増やせるかというところがこのアプリの一番の肝になるというふうに思っていて、例えば広報での周知はもちろんですけれども、我々危機管理課が行っている地域の防災訓練でもアプリのインストールをするためのQRコードを積極的に配りまして幅広い方々にインストールしていただくということに取り組みたいというふうに思っています。以上です。

●伊藤副会長

幅広い年齢層という所に関して、子どもについてはほとんど大人の部分で説明されていたんですけど、子どもも子どもとして見ずにひとりの住民として見ていく必要があるのかなと思っていますので、子どもたちにも子どもの力をひとりの力として将来つけられるように発信をお願いしたいと思っています。

●事務局（鵜沼危機管理課主査）

我々の方で取り組んでいるのが地域の小学校・中学校で一日防災学校という取り組みがかなり広がってきております。今年も3箇所程度で一日防災学校をやろうと思っておりますが、小学一年生から中学三年生ぐらいまで、あと高校生にも今計画してるところがあるんですけども、それらの若い子どもさん達に防

災に関する出前授業的なものを行っているところです。

この動きは結構広がってきておりますので引き続き取り組んでまいりたいと思っています。

●草野委員

質問が二つありまして、一つ目は普段からアプリを使う癖をつけていくことが災害時にも応用できるようになると、普段のまちづくりやその他のアプリとを組み合わせるようになっていくことが必要じゃないかなと思ったんですけども、何かその普段の災害時以外の活用方法で、もし今現時点で想定されているものがあればお聞きしたいなと思います。

二つ目が浜益地区のように60%近い高齢化率になって地域でどう進めていったらいいのかなというふうになるんですけど、出前講座のようなもので例えば地域おこし協力隊もデジタルデバイスの普及の方もだいぶ力を入れておりますので、既存の制度とも連動させていく必要があるんじゃないかなと思ったんですけども、何かもし地域を普及させていくところで既存との組み合わせを想定されているものや何か現時点で考えていることがあれば教えていただけますでしょうか。

●事務局（小林DX推進課長）

一つ目の普段使いのアプリの使い方について現時点で何か想定しているのかというところにつきまして、今考えているところとしては町内会の回覧のデジタル化について、回覧をお届けするのにも役員さんたちが届けるのに大変距離が遠くて困られてる部分があると聞き及んでおりますので、回覧板をデジタル化してスマホやタブレットで見させていただいて日常的に使っていただければというのがまず一つ考えているところでございます。

浜益・厚田などの高齢地域でのデジタルディバイドにつきましては、おっしゃるように出前講座ですとか地域の方の力を借りて実際に地元に行ってお願ひするとか扱ひ方を理解していただくというような手法というのが必要だと考えております。

●事務局（佐々木部長）

私も二年前まで浜益支所の地域振興課におりまして、令和元年からだったんですけども、その間コロナもありまして色々苦戦をしたんですけども、その間に特に高齢化が進んでいる浜益地域で高齢者を対象にスマホを操作してみようというトライアルみたいなことをやりまして、地域おこし協力隊の方ですとか厚田浜益の集落支援員の方々のお力も借りながらやったことがあります。

今回危機管理課で導入を進めておりますライフビジョンの方もですね、今後の拡張性の中でいろんな方との連携協力のもとで高齢者の皆様、市民の皆様に広げていけたらいいなというふうに考えておりますので、所管と協力して進めたいというふうに考えております。

●飯尾会長

それでは次にeLTAX（エルタックス）を活用したQRコードによる公金収納の拡大についての説明をお願いします。

●事務局（渡邊納税課長）

皆さんお疲れ様です。財政部納税課の渡邊と申します。私からは公金収納事務のデジタル化についての取り組みについてご説明いたします。現在納税課が所管する市税はeLTAXによる納税が可能となっております。これを地方税以外の公金についても拡大しようということで取り組みを行うところでございます。eLTAXというのは地方税における手続きをインターネットを利用して電子的に行うシステムになっておりまして、地方税以外では介護保険料や水道料金等に拡大します。この取り組みが遅くとも令和8年9月からスタートする予定と言われております。市民の皆様にお渡しする納付書にQRコードを印字しまして各種決済アプリ（PayPay）などで支払いをできるということになります。まず先ほどお話しいたしました地方税eLTAXは令和5年4月から開始しているところでございます。地方税というのは市道民税・固定資産税・軽自動車税・国民健康保険税などになっております。

それでは4ページ目をご覧ください。4ページ目の下の図はeLTAXによる公金収納の流れについて示しております。まず左に納付書がございます。そこに地方税法統一QRコードいわゆる「e1-QR」

を印字いたします。納付書のQRコードを読み取って地方税お支払いサイトやスマホ決済アプリそれから金融機関の窓口でお支払いをしたデータを地方共通納税システムに送りまして、それで完了ということになります。

地方税お支払いサイトというのはインターネットバンキングや口座振替、ATM等の支払い、それからクレジットカード等の支払いのことを指しております。

スマホ決済アプリにつきましては令和6年6月1日現在43事業者26アプリが対応可能となっております。これに対応できる地方団体としましては令和6年1月1日時点で47都道府県1,732市町村が可能となっております。金融機関の窓口も都市銀行・地方銀行・ゆうちょ銀行・信用金庫・労働金庫など372機関が対応可能となっております。これがeLTAXによる公金収納の大まかな流れとなります。

5ページ目をご覧ください。先程eLTAXによる公金収納の流れについてデータと資金の流れに分けたものをお知らせしております。

まず最初に地方団体がeLTAXの納付書情報の生成・登録を行いまして地方団体が納税者に対して「e1-QR」付の納付書を送付致します。納税者は支払いサイトなどを通じまして納付書情報の照会を行って、お支払いサイト、スマホ決済アプリ、金融機関窓口などでお支払いの操作を行います。このお支払いの消込情報がeLTAXに送られまして地方団体はeLTAXから消込情報を取り込んでシステムに消込処理を行います。その他にコンビニ納付や口座振替などの消込情報をeLTAXの納付書情報へ反映させることとなります。これがデータの流れになります。

次に資金の流れですが決済された資金は幹事金融機関の機構の共通口座に振り込まれます。この資金が各地方団体の指定金融機関などの口座に振り込まれる形になります。

ここでデジタル化のメリットについてお話致します。6ページ・7ページになります。

まず一つ目は今まで納付書で金融機関に行ってお支払いをしていた納税者がスマートフォンやパソコンなどでいつでもどこでもお支払いができること。

二つ目は手書きによる書類の入力ミスや紛失のリスクを減らし、より正確な処理が可能となること。

三つ目に手作業による事務処理が削減され、行政サービスの質の向上につながるということが挙げられております。

それでは冒頭でお話ししました地方税以外の公金収納デジタル化の今後のスケジュールについてご説明いたします。8ページをご覧ください。

今年度はデジタル化が実現可能な公金の範囲を決定しまして、システム上改修に必要な予算要求を行います。現在納税課とDX推進課などを中心として検討委員会を立ち上げまして庁内調査を行い、結果を集約した後、近日中に関係部署を集めて協議をする連絡調整会議を行う予定となっております。

来年度令和7年度につきましてはシステム改修とその事務処理手順の確認作業を行って参ります。

再来年度の令和8年度につきましては4月から8月までにシステムの連動試験と、市民への周知、9月から本格始動をする予定となっております。

9ページ目にそれら想定スケジュールをお示ししておりますのでご覧いただければと思います。私からは以上です。

●飯尾会長

ありがとうございます。

それでは、この件について、ご質問やご意見等ありましたらお願いします。

●本間委員

ちょっと聞きたいことがあります。私は会社を経営しております、国税などではe-TAXはもうだいぶ浸透して普及してるなあっていう感覚はあるんですけども、このeLTAXぜひスピード感持って進めていただきたいと思うんですが、事前にQRコード納付書についてくるということなんですけれども、事前にeLTAXに個人情報といいますかパスワードとIDをとるようなことがあるのかお聞きしたいのと、支払いは24時間365日できるのかお聞きしたいと思います。

●事務局（小林DX推進課長）

私の方からお答えします。

まず一つが事前に手続ということなんですけれども、私も一回使ったことがあるんですけども、特段そのような形ではなくてQRコードをスマホとかで読み取ってその後は支払い決済の機能の方に自動的に移転してそこから支払い手続きをして頂ければという形になっております。

もう一つそのサービスについて24時間365日使えるかというところなんですけれども、メンテナンス時間とか期間とかはございますけれども基本的には普通の金融機関・役所の開庁時間よりも拡大した形で、長い期間で使って頂けるということでございます。私から以上でございます。

●飯尾会長

そのほかによろしいでしょうか。全体を通してでも構いません。委員の皆様からご質問や確認などありませんか。

●草野委員

DXは私もIT機器がかなり好きな人間でございまして、どんどんやっていくべきで行政の効率化であったり市民の方々が使いやすくなるというのは絶対やっていくべきことだと思っています。それによって効率化させたときにもう一個見なきゃいけないことは何を失うのかという観点がこういう議論の時欠如しがちです。効率性ばかり求めた結果失っていくものが必ずその裏であります。

どんどん自分で色々なことができるようになっていくと孤立化が進みます。これは今国の方も孤独・孤立法案が成立して、つまり社会が孤立していつている課題があったときに、どんどん自分でできるようになっていくがために、周りの方に相談するとか、話をするなどの関係性がどんどん薄くなってしまいう問題を違う側面では増やしてしまう可能性があります。

そう思うと効率化をしてよかつたということだけではなくて、効率化したことによってもう一個やらなきゃいけなくなるのが、コミュニティをどうするか、そのITツールを使ってどう関係性を作り直すかなどの組み合わせをすることによって相乗効果が生まれると思います。

分かりやすい例として飲食店でIT化が進んで職員の方々の負担が減るんですけども、その分接客とかをもっと増やそうみたいな判断をすると、お客さんとのやり取りが増えますので、例えばロボットなどにさせる所はロボットにやらせて、直接人と話したほうがいいところは人と話す、ということを増やすことによってより質が上がることになると思います。

そういう意味ではDXを進めると得るものと失っていくものに対して両面で見えていく必要があるのかなと感じました。

●事務局（佐々木部長）

草野委員から大事なご指摘を頂きました。

ご説明した2件につきまして一つは情報をプッシュ型・プル型で市民の皆さんに切り口としては防災情報・危機管理情報ではございますけれどもこれからの汎用性を含めてこういった体制を構築したい。

もう一方は従来の紙の納付書で銀行窓口やコンビニで払っていたものを自宅にいながらにしてQRでPayPayとかでお支払することができるようなことを進めたい。

これを二つ並べまして今まで納付書などで手間・時間をかけていた部分を一方でその我々がこれから発信する情報を外出やコミュニケーションの拡大に繋げていく。片方は省力化につながりますけど、もう一方では有益な情報をお届けすることによって孤立社会を回避してコミュニケーション拡大につなげていきたい。

いずれも行革の取り組みでありますけれども、良いところと悪いところそれぞれうまく組み合わせると良い未来の社会につなげていければいいのかなと思っております。

●佐藤副会長

私は町内会の班長さんの役割だったというのもあるんですけども、町内会に加入していない方って結構いらっちゃって、そうすると回覧板等も加入していないところは回さなくていいと言われてます。そうするとどんどん情報が偏るので直した方がいいんじゃないかなと思いつつも今日に至っております。

回覧板も回すんじゃなくて発信するっていう方向を考えているとおっしゃったので、町内会の会費っていうのが大きな会費じゃないけれど、町内会に入りたくないのは煩わしさがあるらしいので、その垣根が小さくなるといいかもしれない。

今後良い面悪い面についてディスカッションを行って行って、いいものにしていけたらいいなと思いました。

●飯尾会長

それでは、本日の審議は終了したいと思います。皆様のご協力に感謝申し上げます。
事務局に進行をお返しいたします。

●事務局（武田課長）

委員のみなさまにおかれましては、ご審議賜りありがとうございました。

本行政改革懇話会の次回開催は来年3月に「行政改革大綱の進捗状況」等について確認や意見交換を行いたいと考えております。

本日は、様々な視点からご意見を賜りましたことに改めてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

事務局からは以上です。

それでは、本日はこれにて閉会いたします。ありがとうございました。

議事録確定 令和6年10月17日

石狩市行政改革懇話会 会 長 飯尾 亜紀仁